

しょうがいの有無に関わらない

“みんなの居場所”「喫茶わいがや」



障害をこえてともに自立する会

▲スタッフ集合写真

1970年代、国立市公民館でたまり場活動を行っていた若者としょうがいのある若者が出会い、しょうがいのある方の自立や地域での居場所づくりのために、昭和55年（1980年）「喫茶わいがや」が開設されました。そこはしょうがいや生きづらさを感じる若者たちが、わいがやの運営を通じて、共に活動する場になるとともに、利用する市民の方にとっても、“みんなの居場所”となっています。

障害をこえてともに自立する会（以下、「自立する会」）でどのような活動をされているか教えてください。

国立市公民館の1階で「喫茶わいがや」を、しょうがいの有無にかかわらず若者たちが運営しています。具体的には、様々なしょうがいや生きづらさのある方の喫茶実習を行い、一つの店を共につくる仲間として、コーヒードリップや接客などを学んでいます。お店は、若者たちの居場所や市民の憩いの場となっており、市民まつりなど地域のイベントにも出店しています。

自立する会を設立した経緯を教えてください。

1970年代、公民館でたまり場活動を行っていた若者と、しょうがいのある若者が出会い、しょうがいや地域の居場所などに課題があることを知りました。こうした自立に向けた学びや仲間づくりのために、昭和55年（1980年）に公民館内に「喫茶わいがや」を開設し、その運営団体として翌年に自立する会が発足しました。

活動を継続されるにあたって工夫されたことを教えてください。

気軽に参加し続けられるよう、新しく参加された方を温かく受け入れています。加えて、分かりやすいマ

ニユアルづくりや、開店日の調整などの事務効率化を行っています。

また、地域イベント出店時のパンフレットの配布やSNSなどによって、積極的に活動を紹介しています。こうした努力の結果、高校生から社会人まで、幅広い層の方が継続してくれています。

活動を通して印象に残っていることを教えてください。

喫茶店を営業する中で、しょうがいによって一部の作業が難しい場合もありますが、一人ひとりの特性に合わせて工夫しています。

例えば、集中しやすいルーティン（反復作業）を見つけたたり、車いすに合った作業台を作製しました。ほとんどのスタッフに専門知識はありませんが、その場で考え、毎月のミーティングで話し合うなど、試行錯誤を重ねています。この結果、しょうがいがあっても、参加し続ける中で生き生きとした表情になっていくことが強く印象に残っています。

今後の自立する会の活動及び展望などありましたら教えてください。

今後も、「喫茶わいがや」の日常営業のさらなる活性化や、地域イベントへの積極的な参画を通じて、しょうがいのある若者の社会参加の促進、しょうがいへの理解増進及び若者たちの居場所や市民の憩いの場づくりをしていきたいです。

最後に一言お願いします

「喫茶わいがや」の営業日程や、活動への参加方法などの情報は、左下のURL・二次元コードからご覧いただき、ぜひお越しください。

お店と一緒に運営する有償のボランティアスタッフ（高校生〜30代くらい）や、活動に賛同してくださるパートナー会員（全年齢）を募集しています！お気軽にご連絡ください！

▲「喫茶わいがや」店内の様子



「喫茶わいがや URL」 <https://lit.link/kwaigaya>